



# THIS COVER STORY IS...

# 後継者になろう。

高齢化率48%、人口が3千人を下回るのもそう遠い未来ではなくなった日野町。今、あらゆる分野で後継者不足が叫ばれています。地域農業もその一つ。今後、日野の農業を支えていくには何が必要なのかー。みんなで考えてみませんか。

- THEME1** 農業委員会に聞く。  
日野の農業の現在地と未来
- THEME2** ふるさとで農業を。  
受け継いだDNAと情熱
- THEME3** “農”は一日にしてならず。  
その覚悟はあるかー。
- THEME4** この灯は消さない。  
ピンチをチャンスに変えて

誰もが直視してこなかつた現実がようやく顕在化したと言つてもいいのかもしない。地域農業の存続へ待つたなしの状況が浮き彫りとなつた「農家アンケート」。その結果を踏まえ、日野の農業はどこへ向かえばいいのか。日野町農業委員会・長住会長に聞いた。



日野町農業委員会  
長住 武美 会長

特集  
後継者に  
なる。THEME1

## 農業委員会に聞く。 日野の農業の現在地と未来

### 「農業後継者がいない — 61.9% 所有農地を維持できない — 29.3%」

日野町農業委員会 / 農家アンケート (2019) より

高齢化が進み、集落によつてはその維持すら難しくなりつつあることが分かつてきました。地域の農業を守るために、早急に各集落の状況を把握する必要がありました。

長住 まずは、アンケート調査のきっかけを教えてください。

長住 これまで国や県、町ではさまざまな支援制度を設け、中山間地域の農業生産活動を支援してきました。しかし、その間、地域では

「「後継者がいない」「農地が維持できない」という厳しい結果が並びました。長住 このままでは、あと5年も持たない」というのが正直な感想です。「40～50代の後継者がいる」と答えた農地所有者もありました（約2割）が、70歳代や中には80歳代の方が一生懸命農地を守っているのが現状です。

「担い手不足の一因として、「キツい」「稼げない」など負のイメージが重なり、農業への敷居が高くなつていると感じます。今後、農業委員会ではどのような方法で担い手不足の解消や農地を守つていこうと考えていますか？

長住 町と農業委員会では、現在策定中の「日野町がんばる地域プラン」（令和2年度から5カ年）をもとに、さまざまな課題解決に取り組みながら、地域一丸と

なつて農地や地域を守る仕組みをつくつていく予定です。

—具体的にどのような仕組みを盛り込んでいく予定ですか？

長住 まずは、担い手となる

人材の発掘や育成の基盤をつくつていかなければなりません。例えば、高齢化により草刈りや用水路の清掃が行き届かなくなつた集落

とが考えられます。任期を終えた地域おこし協力隊員や定年退職した人などが、新たな担い手の受け皿になり得るのではないかと

うか。そのほか、農林振興

公社の機能強化を図り、農

業や地域をサポートする体

制を強化していきたいです。

—特に新しく農業を始める

人にとつては、トラクター

など農業機械の維持管理も

大変です。

長住 確かに新規就農者や担い手にとってコスト面は大きなハードルです。一つのアイデアとして、離農し手放された農業機械などを次の担い手に託し、参入促進

事なのは、"稼げる"といいうイメージを持つてもらうこと。行政や関係団体とも連携しながら農家の所得向上に向け、いろいろなアイデアを出し合つていきたいと考えています。

—地域では遊休農地・耕作放棄地の増加に伴う、防災・有害鳥獣対策も急務です。人だけではなく農地にも目を向ける必要があります。

長住 今だからこそ、守るべき農地を明確にしていく必要があります。すべての農地を守るには力もマンパワーも不足しているからです。加えて、担い手農家の利用農地を集積し、利便性を向上させていかなければなりません。

—ここが一つの転換点になつていくのかもしれませんね。

長住 “担い手がいない”という課題に直面していますが、悪いことばかりではありません。地域に目を向ければ、まだまだ豊かな資源は眠っていますし、情熱ある担い手も育つてきています。現在地と未来をしっかりと見据えながら、一歩ずつ前進していきたいですね。

—特に新しく農業を始める人にとつては、トラクターなど農業機械の維持管理も大変です。

長住 確かに新規就農者や担い手にとってコスト面は大きなハードルです。一つのアイデアとして、離農し手放された農業機械などを次の担い手に託し、参入促進を図るというものです。大